

連載① 地域密着進める
女子大学の人づくり
 宮城学院女子大学学長 平川 新

来年の2016年4月、宮城学院女子大学は新しく生まれ変わります。これまで1学部10学科体制でしたが、より専門性を明確にするために、従来の学芸学部を再編して、現代ビジネス学部、教育学部、生活科学部部の3学部を開設し、4学部9学科体制へと移行します。

いま、社会はあらゆる場

で女性の力を求めています。女性の力が最大限に生かされてこそ、日本は元気になるのです。1886（明治19）年に宮城女学校を創立して東北の先進的女性教育を担ってきた宮城学院は、第二次大戦後の1949（昭和24）年に学制改革が行われると、いち早く女子大学を開設して新しい時代の女性教育に取り組んできました。その後も学科を増設して社会の教育ニーズに对应してきましたが、創立130周年を迎える2016年に、戦後最大の改革を実施することになったのです。

いま社会は、急激な少子高齢化と、産業構造や労働市場の大きな変化に見舞われています。大学もこの渦中において、社会のニーズに合った改革と対応を求められています。グローバル人材の養成とともに、地域に定着して活力を創出する人材の育成が必須です。人づくりは人を育てるということだけではなく、地域づくりであり、国づくりにつながります。宮城学院女子大学は、新しい学部・学科を創設することで、みずからが生まれ変わるとともに、社会創造のための新しい提案をしていきます。



高校生を対象にした「学部・学科説明会」が4月25日に開催され、熱心に話を聞く姿が多数見られた

「ヒラケ！ミヤガク」掲げ改革推進

今回の改革をアピールするスローガンは、「ヒラケ！ミヤガク」。この「ヒラケ！」には、三つの意味を込めています。

一つは、社会のニーズに对应した新たな学部をヒラクことです。生産も流通も消費も、さらに文化や芸術やレジャーに至るまで、現代社会はあらゆる要素をビジネス化しています。現代ビジネス学部は、経済界・実業界の期待に对应する女性人材の育成に努め

経済活動や企業の仕組みを学び、総合的実践力を身につけた女性を育てます。ビジネスに必要な幅広い知識をもったビジネス・パーソンとしての女性が、この学部から生み出されるのです。

二つ目は、従来の学芸学部を再編して、新たに教育学部と生活科学部をヒラクことです。教育学部は、これまでも定評のある幼児教育（保育士、幼稚園教諭）や児童教育（小学校教諭）の分野に加え

て、健康教育（養護教諭、中学・高校の保健体育教諭）の分野を新設しました。生活科学部は、食と健康のスペシャリストである管理栄養士を養成し、従来から国家試験の高い合格率を誇る食品栄養学科と、環境・文化・社会の視点から生活文化を総

平川新（ひらかわ・あらた）
 昭和25年生まれ。福岡県出身。昭和55年東北大学大学院修士課程修了。東北大学東
 北アジア研究センター長、同災害科学国際研究所長を経て、平成26年4月現職に就任。

三つ目は、女子大学の強みを生かし、学生の夢や才能をヒラクことです。男女共学の大学とは異なり、女性しかいない女子大学では、女性こそがリーダーシップを発揮しなければなりません。複雑化した社会と多様化したライフスタイルのなかで、豊かな生き方やキャリアをみずから考えていくことも大切です。女子大学ならではの環境とキャリア教育が、全ての学部の学生たちに女性の新しい生き方を提供するのです。

宮城学院女子大学は創立130周年の伝統を生かしながら、時代のニーズに合った高い教養と専門性を身につける学びの場を提供し、地域の発展に貢献する大学を目指します。